

1 水準測量による地盤沈下調査結果の概要

本県では、地盤沈下の状況を把握するため、県内を4地域に区分し、国土交通省、名古屋市及び名古屋港管理組合と連携し、1級水準測量を実施している。その内、2025年に愛知県は355kmの測量を実施した。（表1－1、資料－1）

表1－1 各地域の水準点数及び測量延長

区分	測量基準日	測量水準点数	測量延長(km)	
			愛知県	名古屋市
尾張・名古屋市地域	11月1日	587	288	164
西三河地域	9月1日	56	67	－
合計	－	643	355	164

注）測量水準点数には国土交通省始め各機関の観測数も含める。

なお、2025年に観測していない地域の直近の測量年次は、知多地域が2024年、東三河地域が2022年であり、それらの調査結果を資料－7に示す。

（1）地盤沈下調査結果の概要

2025年に実施した水準測量の結果は表1－2に示すとおりで、有効水準点数563点の内、前回から沈下した水準点数は410点であった。沈下点数の割合は、有効水準点数の約73%となり、2024年（約56%）と比べ、増加している。

なお、地盤沈下の目安としている1年間又は1年当たりで1cm以上沈下した水準点は観測されなかった。

表1－2 水準測量結果（2025年）

単位：点

地域	水準点数 測量水準点数	有効水準点数 (A)	沈下点数					割合 (B/A)
			計(B)	0.5cm未満	0.5cm以上 1cm未満	1cm以上 2cm未満	2cm以上	
尾張・名古屋市地域	587	510	389	362	27	0	0	76%
西三河地域	56	53	21	21	0	0	0	40%
計	643	563	410	383	27	0	0	73%

注）西三河地域の変動量は、前回の観測が2023年のため、2年間の変動量を1年間に換算している。

(2) 地域別の地盤沈下調査結果の状況

ア 尾張・名古屋市地域

尾張・名古屋市地域の観測結果（2024 年 11 月～2025 年 11 月）によると、有効水準点数 510 点の内、沈下点数は 389 点であった。有効水準点全体に占める割合は約 76%であり、2024 年（約 59%）と比べ増加した。また、1 cm 以上の沈下点は観測されなかった。

なお、過去 10 年間の沈下点数の推移は、表 1－3 及び図 1－1 に示すとおりである。

次に、年間地盤沈下域の面積と年間最大沈下量の推移を表 1－4、主要な水準点の累積変動状況を図 1－3 に示す。尾張・名古屋市地域における地盤沈下は、1960 年代において著しかったが、1970 年代は沈下速度が鈍化し、1985 年以降は概ね沈静化の傾向を示している。

表 1－3 沈下を示した水準点数の推移（尾張・名古屋市地域） 単位：点

水準点数		観測年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
有効水準点数			562	559	560	560	556	558	561	560	557	510
沈下点数	0.5cm未満		120	450	254	342	328	145	118	412	301	362
	0.5cm以上1cm未満		2	59	11	133	164	10	2	50	26	27
	1cm以上2cm未満		0	2	0	7	1	1	0	0	0	0
	2cm以上		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計		131	550	122	511	265	482	120	462	327	389

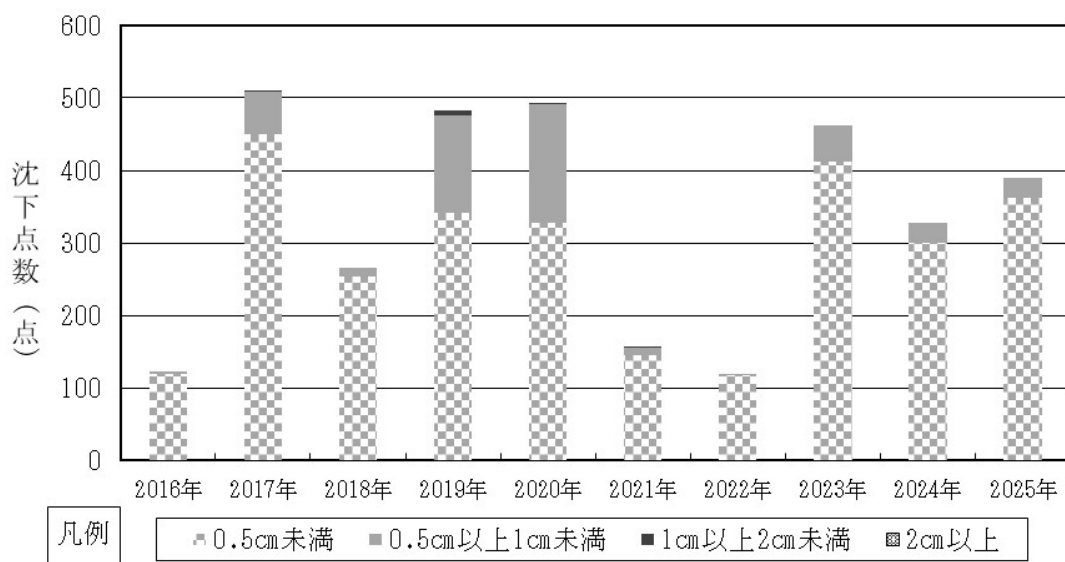


図 1－1 沈下を示した水準点数の推移（尾張・名古屋市地域）

表 1 - 4 年間地盤沈下域の面積と年間最大沈下量の推移
(1972 年～2025 年：尾張・名古屋市地域)

単位：km²

観測年 最大沈下量	1972 年	1973 年	1974 年	1975 年	1976 年	1977 年	1978 年	1979 年	1980 年	1981 年	1982 年	1983 年	1984 年	1985 年	1986 年	1987 年	1988 年
1 cm 以上	※	※	※	※	※	※	※	約 118	約 60	約 61	約 63	約 143	約 98	約 0	0	約 48	0
2 cm 以上	約 500	約 454	約 426	約 176	約 111	約 100	約 96	約 63	約 0	約 0	約 0	約 5	約 0			0	
4 cm 以上	約 330	約 310	約 280	約 107	約 51	約 38	約 0	0				0					
6 cm 以上	約 251	約 223	約 145	約 59	約 4	約 0											
8 cm 以上	約 157	約 164	約 90	約 15	約 0												
10cm 以上	約 83	約 103	約 45	0													
12cm 以上	約 34	約 59	約 19														
14cm 以上	0	約 29	約 6														
16cm 以上		約 15	約 1														
18cm 以上		約 5	0														
最大 cm	13.9	20.6	17.3	9.90	8.40	7.30	4.60	3.50	2.20	3.20	2.40	2.60	2.30	1.50	0.95	1.83	0.61

観測年 最大沈下量	1989 年	1990 年	1991 年	1992 年	1993 年	1994 年	1995 年	1996 年	1997 年	1998 年	1999 年	2000 年	2001 年	2002 年	2003 年	2004 年	2005 年
1 cm 以上	約 25	約 0	約 0	約 32	0	約 351	約 3	約 0	約 0	約 4	約 0	0	約 3	約 0	約 0	約 6	約 41
2 cm 以上	約 0			0		約 49	0			0			0			約 0	約 0
4 cm 以上						0											
最大 cm	2.23	1.98	1.41	1.58	0.98	2.84	1.31	1.31	1.31	1.66	1.73	0.80	1.64	1.50	1.20	2.06	2.08

観測年 最大沈下量	2006 年	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
1 cm 以上	約 0	0	0	0	0	0	0	0	約 0	約 0	0	約 0	0	約 3	約 0	約 0	0
2 cm 以上														0			
最大 cm	1.27	0.77	0.89	0.94	0.70	0.90	0.99	0.91	1.00	1.36	0.69	1.05	0.94	1.25	1.11	1.06	0.71

観測年 最大沈下量	2023 年	2024 年	2025 年														
1 cm 以上	0	0	0														
2 cm 以上																	
最大 cm	0.83	0.76	0.95														

注 1) ※は「1 cm以上」の区分がなかったことを示している。

注 2) 沈下域の面積で「約0」とは、沈下した水準点は存在するものの、沈下域の形成には至らなかったことを示している。また、「0」とは、沈下した水準点も存在しないことを示している。

注 3) 「沈下域」とは、隣接する 3 点以上の水準点の年間沈下量が 1 cm 以上である地域である。

次に、年間沈下量の大きい水準点を表 1－5 に示す。最大沈下点は、飛島村西浜に設置している水準点「K 西 4-9」で、0.95cm を観測した。なお、水準点「K 西 4-9」については、観測開始（1971 年）からおおむね 1cm 未満の沈降・隆起を繰り返しており、累積変動量は 3.36cm の沈降となっている。

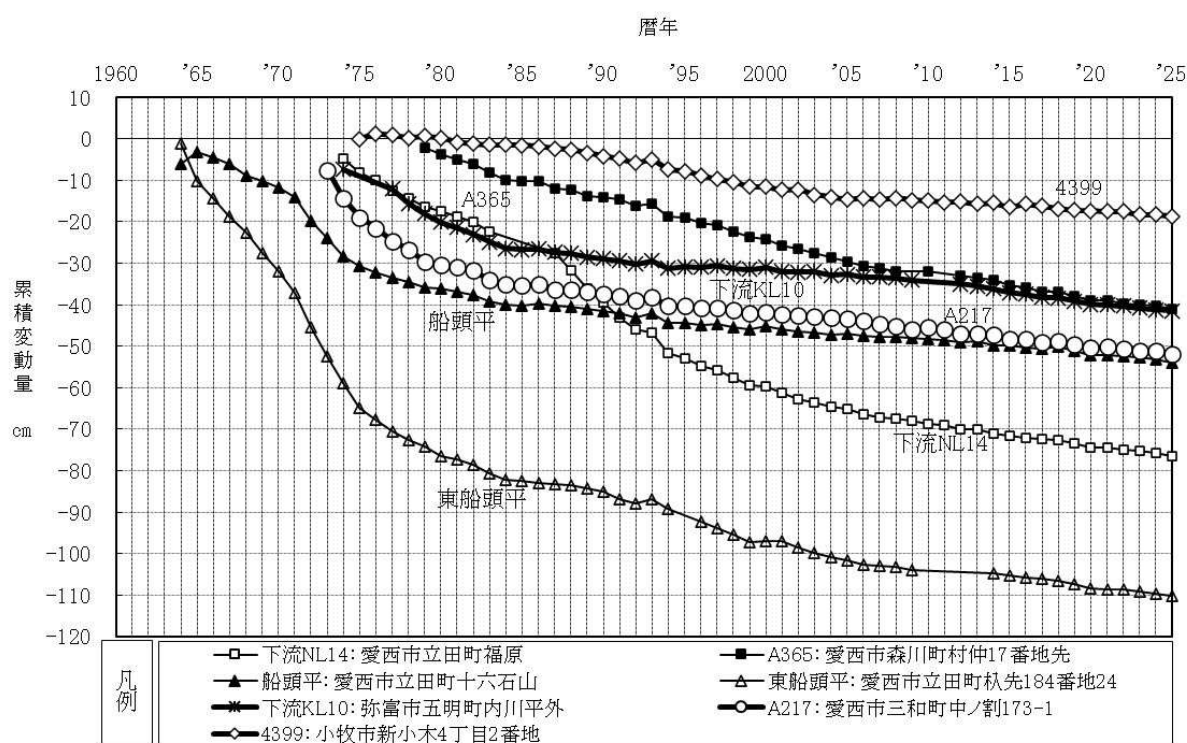
表 1－5 年間沈下量の大きい水準点（尾張・名古屋市地域）

水準点番号	所在地	沈下量(cm)
K西4-9	飛島村西浜	0.95
A217	愛西市三和町中ノ割173-1	0.69
下流NL14	愛西市立田町福原	0.69
N61	名古屋市港区稲永町一丁目2番地先	0.67
K堀川2	名古屋市中区栄一丁目19番5号先	0.67

また、最近 5 年間における累積沈下量の大きい水準点を表 1－6、その変動状況を図 1－2 に示す。最大沈下点は、愛西市立田福原地内に設置している水準点「下流 NL14」で、最近 5 年間の累積沈下量は 2.18cm である。

表 1－6 最近 5 年間の累積沈下量の大きい水準点
(2020 年 11 月～2025 年 11 月：尾張・名古屋市地域)

水準点番号	所在地	沈下量(cm)
下流NL14	愛西市立田町福原	2.18
A365	愛西市森川町村仲17番地先	2.03
船頭平	愛西市立田町十六石山	1.80
東船頭平	愛西市立田町杵先184番地24	1.73
下流KL10	弥富市五明町内川平外	1.57



注 1) 下流NL14 は 1984 年、東船頭平は 2011 年に移設。(移設後 3 年間はデータに含めない)

注 2) グラフ記載の地点は、最近 5 年間の沈下量が大きい水準点上位 5 点及びその他 2 地点である。

図 1－2 最近 5 年間における累積沈下量の大きい水準点の変動状況
(尾張・名古屋市地域)

次に、調査開始から 2025 年までの累積沈下量が 1 m を超える水準点を表 1－7 に示す。最大累積沈下点は、弥富市神戸七丁目に設置している水準点「A3-4」で、累積沈下量は約 150cm であるが、主要な水準点の累積変動状況（図 1－3）を見ると、1990 年頃からは概ね沈静化の傾向を示している。

なお、尾張・名古屋市地域における累積沈下量のコンター図を図 1－4 に示す。

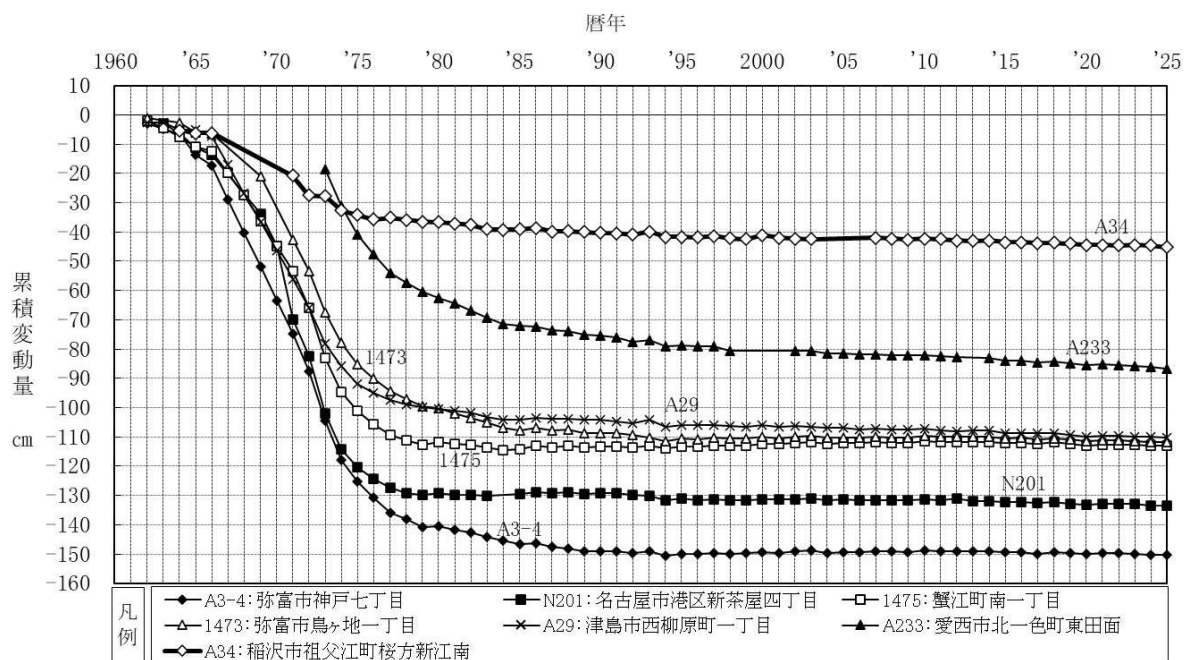
表 1－7 累積沈下量が 1 m を超える水準点
(調査開始～2025 年 11 月：尾張・名古屋市地域)

水準点番号	所在地	沈下量(cm)	標高T.P.(m)	調査開始年
A3-4	弥富市神戸七丁目30-4	150	-1.3707	1963年
N201	名古屋市港区新茶屋四丁目909番地先	133	+0.3479	1962年
1475	蟹江町南一丁目	113	-1.5195	1961年
1473	弥富市鳥ヶ地一丁目90-6	112	-1.8155	1961年
A29	津島市西柳原町一丁目14-1	110	-0.4291	1961年
東船頭平	愛西市立田町杵先184番地24	110	+1.9044	1961年
A25-1	あま市七宝町遠島大切戸1296	109	+0.1108	1963年
A3-5	弥富市四郎兵衛三丁目88	108	+1.3590	1961年

注 1) A3-4 は、1993 年までは旧水準点で、1994 年以降は新水準点で測った結果を累計している。

注 2) T.P. は、東京湾平均海面 (Tokyo Peil) の略。

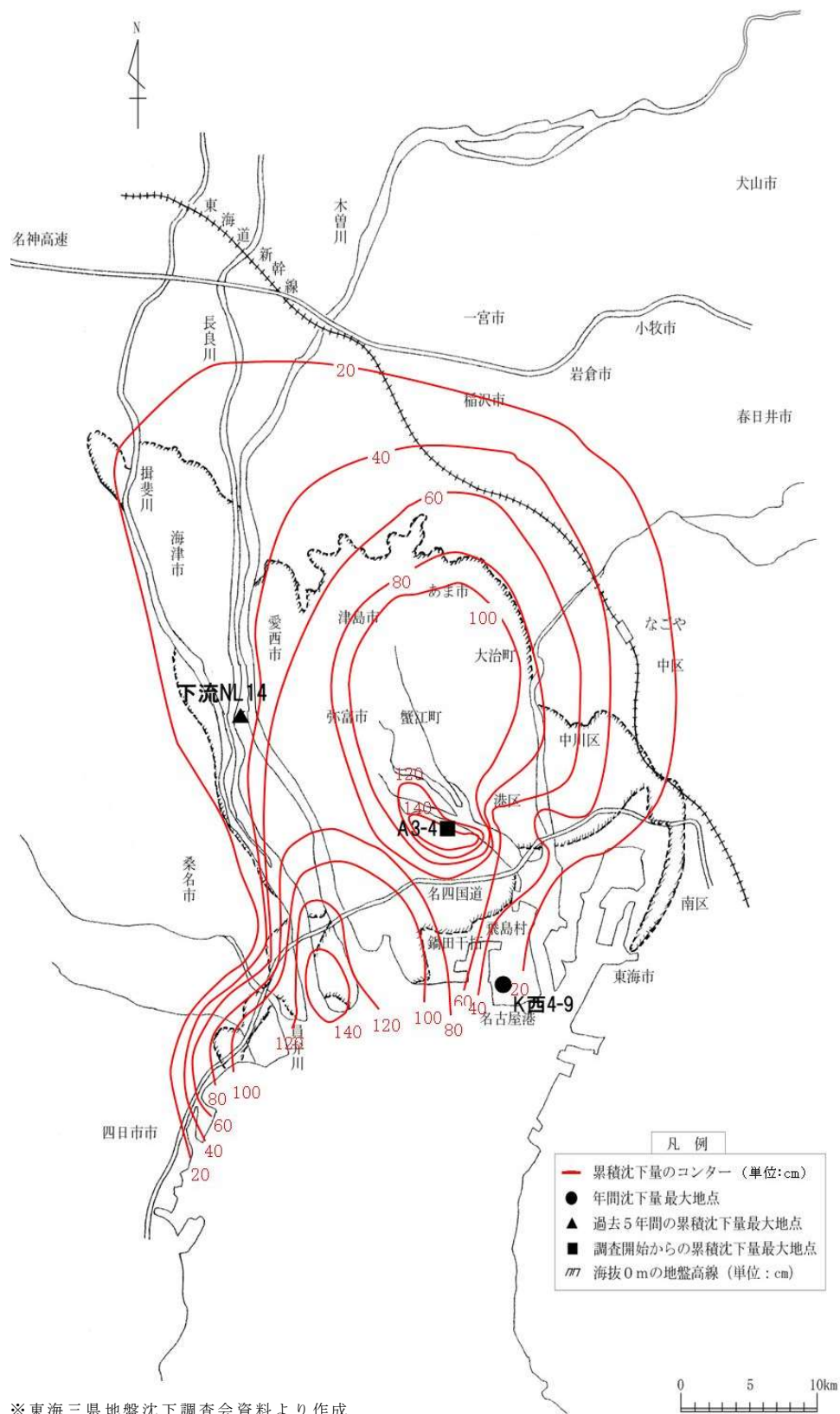
注 3) 尾張・名古屋市地域の標高 T.P.については、国土交通省とりまとめによる「測地成果 2024」改定作業後の値である。



注 1) A233 は 1999 年、A34 は 2004 年に移設（移設後 3 年間はデータに含めない）。

注 2) グラフ記載の地点は、累積沈下量が 1 m を超える水準点上位 5 点及びその他 2 地点である。

図 1－3 主要な水準点の累積変動状況（尾張・名古屋市地域）



※東海三県地盤沈下調査会資料より作成

図1-4 累積沈下量のコンター図（1961年～2025年：尾張・名古屋市地域）

イ 西三河地域

西三河地域の観測は、前回調査が 2023 年であるため、最近 2 年間（2023 年 9 月 1 日～2025 年 9 月 1 日）の変動状況である。有効水準点 53 点の内、沈下点数は 21 点であった。有効水準点全体に占める割合は約 40％であり、前回調査時（約 94％）と比べ減少した。

また、1 年あたりに換算して 1 cm 以上沈下した水準点は観測されず、沈下域は生じなかった。

沈下点数の推移を表 1－8 及び図 1－5、年間地盤沈下域の面積と年間最大沈下量の推移（1975 年～2025 年）を表 1－9、主要な水準点の累積変動状況を図 1－6 に示す。西三河地域では、1997 年以降 1 cm 以上の沈下点は観測されておらず、沈下域は 1985 年以降、1990 年を除いて生じていない。

年間沈下量の大きい水準点を表 1－10 に示す。最大沈下点は、西尾市吉良町吉田豊岡に設置している水準点「A355」、西尾市吉良町大島上に設置している水準点「32」、岡崎市矢作町字祇園に設置している水準点「A395」で、0.35cm を観測した。

また、最近 6 年間における累積沈下量の大きい水準点を表 1－11 に示す。最大沈下点は西尾市吉良町吉田豊岡に設置している水準点「A355」で、最近 6 年間の累積沈下量は 3.03cm である。

調査開始から 2025 年までの累積沈下量が大きい水準点を表 1－12、その累積変動状況を図 1－6 に示す。最大累積沈下点は、西尾市吉良町白浜新田北切に設置している水準点「A200」で、累積沈下量は約 46cm である。

なお、西三河地域における累積沈下量のコンター図を図 1－7 に示す。

表 1－8 沈下を示した水準点数の推移（西三河地域）

単位：点

観測年 水準点数		2005 年	2007 年	2009 年	2011 年	2013 年	2015 年	2017 年	2019 年	2021 年	2023 年	2025 年
有効水準点数		87	87	81	68	50	38	53	54	54	53	53
沈下 点数	0.5cm未満	61	63	20	33	13	24	46	32	40	50	21
	0.5cm以上1cm未満	10	8	0	0	0	2	2	1	0	0	0
	1cm以上2cm未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2cm以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	71	71	20	33	13	26	48	33	40	50	21

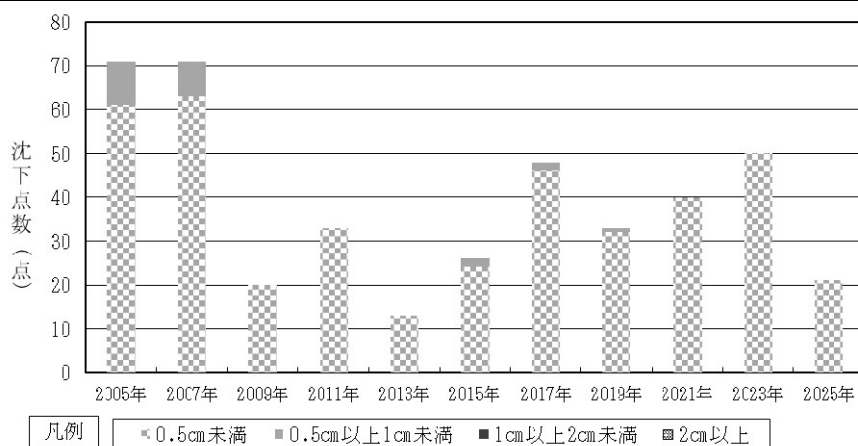


図 1－5 沈下を示した水準点数の推移（西三河地域）

表 1－9 年間地盤沈下域の面積と年間最大沈下量の推移
(1975 年～2025 年：西三河地域)

単位：km²

観測年	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
最大沈下量	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
1 cm 以上	0	約 3	約 4	—	約 8	約 20	約 64	約 9	約 16	約 16	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 4	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0
2 cm 以上			約 0	—		約 0	約 10	約 0	約 0	約 0						約 0									
3 cm 以上				—		約 0	約 0																		
4 cm 以上				—																					
最大 cm	0.7	1.6	2.3	—	1.2	3.1	3.5	2.7	2.7	2.4	1.1	1.5	1.7	1.35	1.69	2.20	1.11	0.67	1.41	0.92	1.01	1.27	0.93	0.75	0.36

観測年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
最大沈下量	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
1 cm 以上	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
2 cm 以上							—		—		—		—		—		—		—		—		—		—	
3 cm 以上							—		—		—		—		—		—		—		—		—		—	
4 cm 以上							—		—		—		—		—		—		—		—		—		—	
最大 cm	0.55	0.64	0.52	0.95	0.39	0.91	—	0.83	—	0.37	—	0.26	—	0.22	—	0.36	—	0.62	—	0.64	—	0.44	—	0.34	—	0.35

注 1) 沈下域の面積で「約0」とは、沈下した水準点は存在するものの、沈下域の形成には至らなかったことを示している。また、「0」とは、沈下した水準点も存在しないことを示している。

注 2) 1978年、2006年、2008年、2010年、2012年、2014年、2016年、2018年、2020年、2022年、2024年は測量を実施していない。1979年、2007年、2009年、2011年、2013年、2015年、2017年、2019年、2021年、2023年、2025年の最大cmは、1 年間に換算した変動量を示す。

表 1－10 年間沈下量の大きい水準点（西三河地域）

水準点番号	所在地	沈下量(cm)
A355	西尾市吉良町吉田豊岡	0.35
32	西尾市吉良町大島上	0.35
A395	岡崎市矢作町字祇園	0.35
A212	西尾市下永良町西後落	0.22
A-4	岡崎市福桶町宮越	0.15
166-1	岡崎市八帖町字往還通	0.15

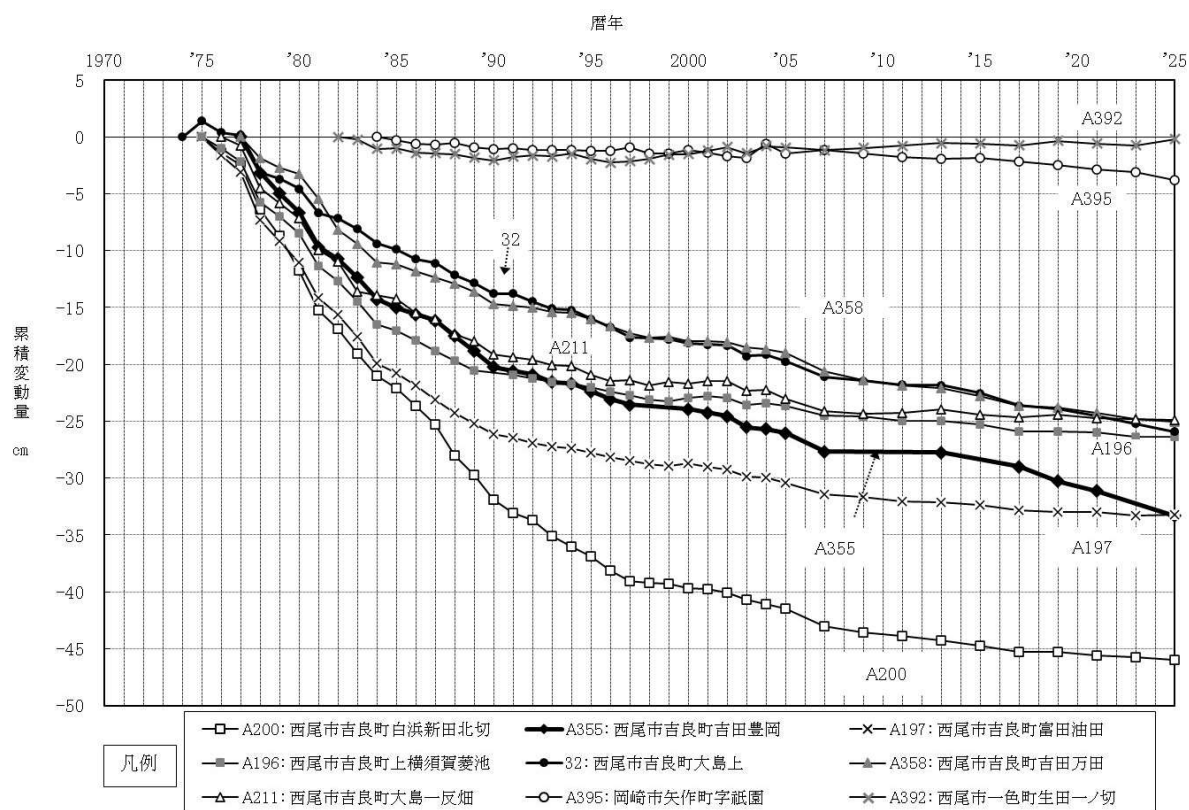
表 1－11 最近 6 年間の累積沈下量の大きい水準点
(2019 年 9 月～2025 年 9 月：西三河地域)

水準点番号	所在地	沈下量(cm)
A355	西尾市吉良町吉田豊岡	3.03
32	西尾市吉良町大島上	1.99
A395	岡崎市矢作町字祇園	1.33
A358	西尾市吉良町吉田万田	1.26
A212	西尾市下永良町西後落	0.85

表 1－12 累積沈下量の大きい水準点
(調査開始年～2025 年 9 月：西三河地域)

水準点番号	所在地	沈下量(cm)	標高T.P.(m)	調査開始年
A200	西尾市吉良町白浜新田北切	46	+ 1.0101	1975年
A355	西尾市吉良町吉田豊岡	33	+ 3.9022	1977年
A197	西尾市吉良町富田油田	33	+ 1.2389	1975年
A196	西尾市吉良町上横須賀菱池	26	+ 2.2315	1975年
32	西尾市吉良町大島上	26	+ 4.5447	1974年
A358	西尾市吉良町吉田万田	25	+ 1.3395	1977年
A211	西尾市吉良町大島字一反畑	25	+ 0.0731	1976年

注) 西三河地域の標高 T.P. については「測地成果 2011」を使用した値である。



注) グラフ記載の地点は、累積沈下量の上位7地点及びその他2地点である。

図1-6 主要な水準点の累積変動状況(西三河地域)

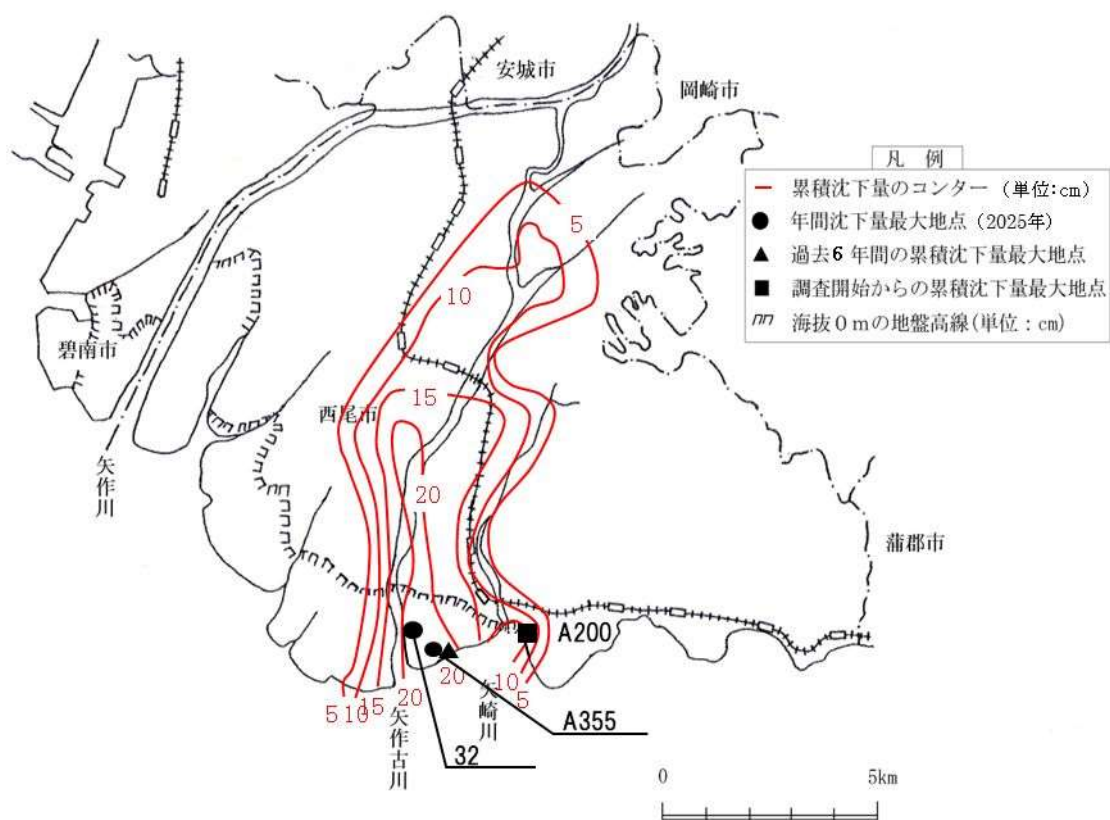


図1-7 累積沈下量のコンター図(1975年~2025年:西三河地域)